

## ホッキョクグマのゴーゴに関していただいているご意見について

この度は、ホッキョクグマのゴーゴの帰園に関するご意見等をいただき、天王寺動物園の動物のことをお気遣いくださり、ありがとうございます。また、ご心配をおかけしていることを申し訳なく思っております。

ホッキョクグマの飼育方針については、以下のとおり考えております。

天王寺動物園が加盟している（公社）日本動物園水族館協会では、会員施設が協力しながら継続的な繁殖により飼育動物を維持し、調査研究や野生復帰といった種の保存のための活動につなげていく取り組みを進めており、天王寺動物園もその方向性に沿った活動を積極的に推進しております。

取り組みを効果的に進めるために、絶滅の恐れの高い約 100 種が優先的に取り組む種として選定されており、ホッキョクグマもその対象種の 1 つとなっております。

国内のホッキョクグマの飼育頭数は長年下降傾向にあったため、（公社）日本動物園水族館協会は全国の飼育施設でより積極的な繁殖計画を進めるために 2011 年に「ホッキョクグマ繁殖プロジェクト 2011」を策定いたしました。

そのプロジェクトの一環として、繁殖を目的として動物の貸し借りをを行うブリーディングローンという制度により雌のバフィンが浜松市動物園から当園に移動し、2014 年 11 月、雄のゴーゴとの間に雌のモモが誕生いたしました。

ゴーゴは飼育下で繁殖実績のある貴重な雄であることから、より多くの繁殖機会を与えるために国内の繁殖計画に基づき 2015 年 3 月にアドベンチャーワールドへブリーディングローンで移動いたしました。

バフィンとモモは 2016 年 6 月に浜松市動物園へ移動したため、現在当園では 3 歳の雌のイッチャンのみを飼育しております。

今後、将来的にゴーゴはイッチャンとの繁殖を図るために当園に戻す予定です。しかしながら、通常単独生活を送るホッキョクグマは原則として雌雄別々に飼育することが望ましいとされており、現在当園で飼育している雌のイッチャンはまだ繁殖年齢に達していないことから、今すぐにゴーゴを当園に戻しても当面は 2 頭の同居はできず交互に放飼場に出すことになるため、いずれの個体にも今以上のストレスを与えてしまう可能性があります。従いまして、適切な時期を見計らってゴーゴの移動を行いたいと考えております。

アドベンチャーワールドでも、ゴーゴがより質の高い生活を送れるように検討を進めていただいております。最近も環境エンリッチメントなどの取り組みを加速していただいております。引き続き、連携をはかり適切な飼育が行えるよう努めてまいります。

今後も引き続きゴーゴを含むホッキョクグマ、さらには天王寺動物園の全ての動物たちに対して暖かいご支援いただけるとありがたく思います。ご意見いただいたことに、重ねてお礼申し上げます。